第13回日ロテニス交流会を成功させた戦士達

新潟市テニス協会会長　前田　奉司

ハバロフスク極東テニス連盟と新潟市テニス協会、佐渡テニス協会は毎年交互に訪問し、テニス交流会を行っている。最初は13年前に東京野津田クラブとの交流から始まった。

今年は13回目をハバロフスクで行うことになり、新潟市と佐渡テニス協会が中心となり、14名が参加し、東京からも一名が参加した。今年の交流会が実現するまでには実に色々な出来事があったが、関係者の大変な努力と協力で大きな成功を収めることが出来た。
今回の交流会が成功するまでの関係者の大変なご苦労話をここに紹介したい。

今年は8月20日(土)13:00新潟発のヤクーチヤ航空で出発し、ウラジオストクに15:40に到着し、市内観光、ウラジオストク最高のレストランでの夕食の後、あこがれのシベリア鉄道でハバロフスクに向かう予定であったが、残念ながらいろいろな事情で飛行機の新潟出発が大幅に遅れ、ウラジオストク到着が遅れたためにウラジオストクでの予定を全てキャンセルし、21:30ウラジオストク駅発の列車に間に合わす為にウラジオストク空港から市内の鉄道駅に向かわずにバスでウラジオストク駅からハバロフスクに向かって2つ目の駅のウウスリースク駅に向かった。

然しながら、10分違いでシベリア鉄道に乗れず、念のために予定していたその後1時間半後の列車にも満員で乗れなかった。
この時点でウラジオストクにもハバロフスクにも行けなくなり、夜中の12:30にシベリアの原野に放り出され形になった。
その後、通訳の奮闘もあり、バス運転手の交代要員が見つかりそのバスでハバロフスクに向かった。
普通は道路事情でこの深夜にバスでウラジオからハバロフスクに向かうことはあり得ないことであった。
この10時間の行程が如何に苦しいものであったか現場にいた人にしか語れない語るも涙、聞くも涙の物語である。

ハバロフスクでは、ウラジオストクからの皆様の到着が13:00以前にはあり得ないと考え、23日13:00から予定していた交流会の中止を考えていた。

ところが、ここで神様のお助けがあったのか･･･バスが10:30に到着したのです！！

然も到着した戦士たちはほとんど10時間眠っていいなにもかかわらず、予定通り13時に開催することになり、全員、果敢で積極的なプレーを見せ、観客を驚かせた。
これは、日本からの戦士たちを心より待ち望んで、待ってくれていたハバロフスクテニス連盟の人達、ハバロフスク日本国総領事を始め日本センターの皆様に会いたいという強い意志があったからである。

その夜は、予定通り日ロテニスプレーヤが参加し、遅くまで素晴らしい交流会が行われた。
新潟、佐渡のプレーヤーは全員浴衣で新潟甚句、佐渡おけさを披露した。ロシア側には新潟の酒が特に好評であった。
13回目の交流会を成功させたいという関係者の皆様の強い意志と体力に心から拍手を送りたい。

この様な苦労をして実現した交流会を今後も是非続けてゆきたいものである。